

病院を核としたまちづくり推進特別委員会記録

開催日時 平成27年2月17日(火) 10:02~11:00

開催場所 第1委員会室

出席委員 6名

森山 賀文 委員長

山本 進章 副委員長

大国 正博 委員

山村 幸穂 委員

神田加津代 委員

荻田 義雄 委員

欠席委員 2名

中野 雅史 委員

小泉 米造 委員

出席理事者 渡辺 医療政策部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 2月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○森山委員長 それでは、ただいまの説明、報告、またはその他の事項も含めまして、質疑があればご発言願います。

○大国委員 おはようございます。端的に2点お尋ねしたいと思います。

新奈良県総合医療センターの建設に向けての工事が進められております。周辺を通りましても、随分その概要というものが外からも見えるようになってまいりました。周辺に木も植えられておまして、周辺の皆さんも日々変わっていく姿を見ていらっしゃるものがよくわかっているところでございます。

その中で、この新奈良県総合医療センター周辺のまちづくり、先ほどアイデアコンペの第2部門でもお話がありましたけれども、もう少し詳細にどのようなまちづくりを目指すのかをお聞きしたいと思います。特に、地元の方々のご要望としては、ふれあい会館をつくってもらいたいというご要望を受けていらっしゃると思いますけれども、そのようなこ

とについて県としての考えがあればお尋ねしたいと思います。

もう1点は、これまで質問をしてまいりましたが、新奈良県総合医療センターへの、近鉄奈良線からのバス路線等の検討状況はどうなっているのか、もし進んでいけば、お聞きしたいと思います。

○中川医療政策部理事 それでは、1点目のご質問は私からお答えさせていただきます。

今も説明させていただきましたように、第2部門、残念ながら最優秀賞はなくて、応募者数も若干少なかった。非常に残念な結果ではあったのですが、ご質問いただきました周辺まちづくりということで、西の京自動車学校の跡地も含めた全体の利活用をどうしていくのかということで、県では医療政策部だけではなくて総務部のファシリティマネジメント室でも中心になって、一緒になってこのまちづくりの検討を進めているところでございます。

今回のアイデアコンペで募集をさせていただく時点でも、これまでの議論の延長で、西の京自動車学校の敷地が全体として約2ヘクタールありますので、最終どれぐらいの面積になるかはまだ詳細は確定はできていないのですが、院内保育所を整備したいというのが1点目でございます。それと、もう1点は、職員の宿舎になるようなものを整備していきたいと、この2点については必須条件で入れていきたい。それ以外にも、かなり敷地が広うございますので、今回のアイデアコンペでも民間の自由な発想でご提案をいただきたいということではあったのですが、あの場所の現在の環境、将来のことを見据えてご提案をいただくというところでなかなかいいアイデアがなかった。今後この構想づくりをどう進めていくのかということに係ってくるかと思うのですが、今回のアイデアコンペも踏まえまして、平成27年度はあの場所について構想づくりを進めていきたい。ここは奈良市平松地区のまちづくりよりも少し早目に病院ができますから、3年後のオープンに向けまして、次年度は開発を行っていただく事業者の選定にまで入ってきたいと、それに合わせた構想づくりをしていきたいとなっております。

ご指摘いただきました地元六条の連合会からは、さまざまなご意見、ご提案もいただいております。ふれあい会館的なことももちろんですが、あの地域のコミュニティーを再生していきたいということで、地域で組織もきちんとつくっていただいておりますので、今後、この構想づくりには地元の奈良市も含めて、自治連合会とも十分協議をさせていただきながら次年度、構想づくりを進めてまいりたい。できれば地元の方とも交流できるようなものがあればいいと思っております。そこも踏まえて構想づくりを進めてま

いりたいと考えております。以上です。

○蘆村新奈良病院建設室長 近鉄奈良線からのバス路線でございますけれども、新奈良県総合医療センターへのアクセスにつきましては、既存の路線バスの活用を基本にして、事業者であります奈良交通と協議を継続しております。それで、近鉄奈良線沿線からのバス路線につきましても協議を続けておりますけれども、現在のところ、採算性等もありますので、その辺も含めて奈良交通でご検討いただいている状況でございます。

引き続きまして、新奈良県総合医療センターのバス路線の確保に向けまして、周辺、土地の利用状況も随分変わってきておりますので、そういうことも含めまして協議を続けていきたいと思っております。以上です。

○大国委員 ありがとうございます。もう少しすると、新奈良県総合医療センター周辺の六条地区の方との協議もされるとお伺いしておりますけれども、積極的に皆さんのご意見を取り入れていただいて、周辺の皆さん、もう本当に心待ちにされておりますこの病院の建設につきまして協力が得られるように、しっかりと協議をお願いしたいと思います。

2点目のバス路線につきましては、今も近鉄学園前駅からの奈良市平松地区へのバス路線もありますし、朝たくさんの方が乗っていかれるところを見ております。近鉄奈良線からバス路線を出してほしいという強い要望も受けておりますので、繰り返しの質問になっておりますけれども、ぜひとも、しっかりとまた奈良交通と、採算というよりも新奈良県総合医療センターにバス路線がどこからかということがもう少し明確に、中央の大きな駅からももちろん行けるようお願いしたいと思いますので、ご要望、ご協議を引き続きよろしくをお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○山村委員 それでは質問したいと思います。

実はこの間、知事と奈良市でまちづくり協定が締結されることになったと聞いています。報道もありました。包括協定という形で結ばれている協定の中を見ましたら、奈良市平松地区のまちづくりもその対象地域に入っているということで、この協定の中ではまちづくりの計画を立てるのは奈良市と読み取れるのですが、これまでの経過もありますし、奈良市平松地区のまちづくりの責任者は引き続き県であると考えているのですが、それに変わりはないのか。このまちづくり協定という形で奈良市が今後どのようにかかわってくるのかということと、これまでずっとされてきました協議会があると思うのですが、この協議会との関係はどのようになるのかという点について確認しておきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○中川医療政策部理事　ご質問いただきましたまちづくり包括協定でございますけれども、包括協定全体は県土マネジメント部まちづくり推進局で事務局をさせていただいておりますけれども、特に奈良市平松地域の実際のところについては、病院の敷地は県有地でございますので、従来から私どもの医療政策部が主になって協議を地元の方も含めてしていたところでございます。今後も医療政策部で、まちづくり推進局と一緒に地元と協議を進めていきたいと思っておりますけれども、基本的なスタンスはこれまでと変わりはないものと思っております。

ただ、まちづくり包括協定を奈良市と県が結んだということで、これまで以上に奈良市の担当部局も積極的にこの地域のまちづくりにかかわっていただく、あるいはこれ以上に緊密な連携をとりながら進めていけるものと期待しております、その意味ではもう既に奈良市でも総合政策部と保健福祉部が連携して、このまちづくりについてかかわっていくということで、協議も始めているところでございます。また、近々、地元の方との協議の場でありますまちづくり協議会も開催する予定でございますので、この包括協定を受けた後の進め方について地元の方とも協議を進めていきたいと考えております。以上でございます。

○山村委員　私のところには、どのようになるのか、いろいろ疑問の声が寄せられていましたので、きちんと対応していただいて、引き続き県が事務局として推進の責任者に当たるということであれば結構かと思っておりますので、その点でお願いしたいと思っております。

次に、こういうアイデアコンペもされて、結構関心が高かったと思っておりますが、幾つかの案が出され、選ばれたのは一応5件と聞いていますけれども、地元の方からも点があったと聞いているのですが、そういう皆さんの思いや意見が反映されることが望ましいのではないかと思いますので、先ほどもご説明ありましたように、いろいろな提案の中での住民の思いというの酌み取っていただくようお願いしたいと思っております。

今後ですけれども、この案をもとに一定の方向というか、そういうものを協議会を通じて議論した上で固めていかれるのではないかと思いますので、それをまた周辺の住民の方にお知らせしていただくとか、そこでまた住民の方も含めていろいろな意見も聞いていただくような機会を持っていただくことになるのか、今後の取り組みの方法といいますか、固めていくやり方というのですか、どのようにされるのかをお聞きしたいと思っております。

○中川医療政策部理事　今回のアイデアコンペは、これはアイデアコンペでございますの

で、これが県の構想案ということではございません。ただし、最優秀作品は、我々から見ても非常にいいアイデアを盛り込んでいただいた、最優秀以外の作品も個々に見ますと非常にユニークな、あるいは熱心なアイデアが入っておりますので、最優秀賞だけではなく優秀賞をとられた方の作品も地元の方に見ていただいて、先ほど言いましたように、近々協議会をやりますので、その場でそれも踏まえながらご意見いただきたいと、そういう進め方をしていきたいと思っております。既に、コンペの表彰式が終わった後に地元の連合会長にもお伺いさせていただきまして、作品のサンプルというか、きょうお付けしているような資料を見ていただきました。連合会長もこれをもとにして議論が進められるということについてはわくわくした気持ちになってきたと、前向きに捉えていただいておりますので、ぜひ最優秀、優秀作品も踏まえて議論を加速させていきたいと思っております。以上です。

○山村委員　さまざまな形で住民の方の意見をしっかりと酌み取っていただくということで進めていただきたいと思っておりますので、その点よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○荻田委員　私から2点ばかり。

交通アクセス、特に新奈良県総合医療センターでございますが、近鉄西ノ京駅からのアクセスということで。六条柳地区の乾川の改修とともに市道の移動ということで、随分やっていたらいいようでございますけれども、近鉄西ノ京駅周辺のバスターミナルのところ、それから狭隘な部分、そしてとりわけ奈良医療センターから西へ向けて西の京自動車学校のところへ抜け切る、こういったところの状況がどのようになっているのか。地元へ向けての対応は、どのような形で進んでいるのか、まずお聞かせください。

それから、今、蘆村新奈良病院建設室長からお話がありましたけれど、新奈良県総合医療センターをあんな不便なところに、交通機関の大変なところへつくったのは、どこがつくったのですか。県が決めたのでしょうか。そしたらやっぱり交通アクセスやバス輸送というところは奈良交通に任せていますということでは、いけないと思う。あなたたちがつくったものを、利便に供せられるようにしっかりと受けとめて、奈良交通に対して県としてはこのようにさせていただきます、そして入院患者や外来患者、さらには見舞いのお客さんなども含めて、反対に県が交通機関が繁茂な形で利便に供せられるようにつくり上げていただかなかつたらどうなるのですか。この話はちょっとおかしいと思う。この辺について、医療政策部長、どうお考えになるのか。

それから、もう1点は、奈良県総合医療センターの跡地利用はアイデアコンペによってこういうまちづくりを進めるということでございます。もちろん地元も一生懸命になって、このようにしてほしいという要望は随分聞いてまいりました。やはり医療施設を第一義に考えてほしいということ、それから地域包括ケア、十分整えられるように。今見ておりますと、どのようになっていくのかという結論は見えておりませんが、もともと病院が建ったことによってまちづくりが進んできた地域でもございます。ましてや高齢化がどんどん進んでいる地域でもございます。こういったところのニーズを十分受けとめて、アイデアコンペに最優秀として出ていることも承知しておりますけれども、事業の手續や地元の生の声を十分反映すること、これはもう医療政策部でも取り組んでいただいていると思いますが、この医療施設をどのような範囲で、範疇で対応するのかというところが恐らく残ってくるのだらうと思うのです。もちろんこのことに関しては奈良市、保健所、あるいはそれぞれの所掌事務をつかさどる役所がしっかりと連携を密にして、県と市が協力して対応していただくことが一番いいこととございますけれども、今後こういった流れを受けて最終的に奈良市の保健福祉部、前田部長のところだよね。だから、保健所掌する課と県と地元の意向というものをコンセンサスを得られるような機関というのは、しっかりやっていきますということですが、その辺についても再度お聞かせください。

○本村地域デザイン推進課長 まず最初にご質問がありました近鉄西ノ京駅方面から新奈良県総合医療センターへのアクセスについてお答え申し上げます。

近鉄西ノ京駅から、新奈良県総合医療センターへの道路は、非常に狭隘な部分もございますし、種々課題であると認識しております。幾つか課題ございましたけれども、まず、六条3丁目交差点北側の乾川のところの整備についてでございますが、こちらについては平成25年度から県で乾川の河川整備を新規に事業化いたしまして、地形測量が完了しております。現在、道路拡幅計画も考慮した河川予備設計を行っているところでございます。今後とも重点的に取り組んでまいるといように考えております。

続きまして、奈良医療センター前の市道の拡幅でございますが、こちらについても平成26年5月に県で地形測量を完了させまして、現在奈良市で用地確定作業と道路詳細設計を行っているところでございます。計画がまとまった段階で再度関係者との協議を行って、ご協力が得られたところから用地測量や補償調査を進めるなど、重点的に取り組んでまいり所存でございます。

続きまして、近鉄西ノ京駅周辺のお話でしたが、こちらにつきましては現在、

奈良市において近鉄西ノ京駅の東側の駅前広場、それから県道奈良大和郡山斑鳩線から近鉄西ノ京駅までを結ぶアクセス道路の計画を行っているところでございますけれども、平成26年3月に地元説明会を終えておりまして、現在、都市計画決定に向けて関係機関との協議を進めていると伺っております。

それから、反対側の西側でございますけれども、駅前広場を含む南北道路の整備に向けて、用地境界の立ち会いや道路詳細設計、こういったものは完了して、現在は地権者との用地交渉を進めていると伺っております。県としてもバスロータリーから駅までの歩行者の安全確保であるとか自家用車、タクシーの待避スペース、それから駐輪場の配置など、近鉄西ノ京駅の東西を一体とした駅前整備の抜本的な対策が必要だと考えておりまして、今後とも市と協議、調整を進めてまいりたいと思っております。

それから、どのように地元に対してご説明していくかという点でございます。もろもろ課題はございますけれども、今年度も現在の進捗状況や今後の予定について、随時、自治連合会の定例会等の場で説明を行っているところでございます。関係者との調整が調っておおむねその結果が固まったものについては、自治連合会の役員会で説明するなど、連合会と相談しながら計画内容の周知に努めているところでございます。今後とも計画がとりまとめ次第、連合自治会長とも地元周知の方法等について協議してまいりたいと考えております。以上でございます。

○渡辺医療政策部長 先ほど新奈良県総合医療センターの公共交通機関のことにつきまして、蘆村新奈良病院建設室長からも説明させていただきましたが、私からも少し補足をさせていただきますと思います。

現地の山が1つ削られて、周辺の景色も変わってくる中で、周辺住民の方々、そして県民の方々の期待はますます膨らんでいるところだろうと考えておりますし、建物を建てて、あとは来てくださいというようにはもちろん考えておりません。中身を担う医療スタッフを充実させなければいけないこともございますし、病院に向けての周辺の交通アクセス、それから公共交通機関をどのように整備していくかも大きな課題として認識しております。

委員がご指摘のように、奈良交通にお任せしますということでは決してございません。状況が変わってくる中で、奈良交通にもしっかりと、働きかけていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○荻田委員 医療政策部長、そういう思いでしっかりと受けとめて、そして県は自主的に利便に供せられるように、病院にお越しいただく方々にとって本当にいい病院だと、交通

も便利だという形づくりをしてあげてください。学園前、あるいは西大寺、あるいは富雄のルートで、そこだけでということではなくて、西ノ京地域はほとんどの住民は近鉄西ノ京駅です。知事も全くそれがわかっていなくて、こういう形になってきたわけですが、ともあれ西側は非常に狭隘です。時々、歩行者がけがをするといった交通事故があるようですけれども、もう大変な状況なので、一刻もそういった思いを、県がイニシアチブをとって奈良市と十分協議をして進めていただきたいと思います。このことについて強く要望しておきたいと思います。

それから、奈良医療センターから西のことですけれども、いずれ、1軒立ち退きをしていただかないといけないと、聞いているのですが、そういった対応もです、これ事業主体はどちらになるのですか。

（「あれは市道です、奈良市」と呼ぶ者あり）

奈良市でやる。このことについては県も応分の負担をすることになっているのか。（発言する者あり）それは十分対応してあげてください。奈良市は金がないと言ってなかなか前を向いて進まないですから、助けてあげてください。

それから、もう1点は、西の京自動車学校の跡地利用について、条例の案文の中に、西ノ京県有地活用事業整備事業者選定審査会を設置して、跡地利用を含めて土地利用を図っていただく事業者を選定していきたいというような旨を書いています。そういった中でも、地域にとっていいもの、そしてその地域にとってより一層人と、それからやっぱり地域にお金が落ちるといふ、こういったものも両面で対応できるような施設づくりというものもいいのではないかと。それから、院内保育や職員の宿舎という話もありますけれども、つくられるのは自由ですけれども、六条地区の自治連合会は今、自治協議会というものをつくって、自分たちのまちは自分たちでいろいろなものを、小さな舗装がめくれている、自治協議会でみんなやりましょうとか、職員を配置してそういった対応していこうというところだそうです。より一層、地域の自治会、連携を密にしてやられることだろうと思います。今の自治連合会長はやる気満々ですから、やってくさるでしょうけれど、後が続いていくのかという心配はあります。地元と県庁と、いろいろな考え方があると思いますけれども、先ほど大国委員からも話が出ていますように、ふれあい会館は移転するという段階から知事と話をされているようなところがあります。ふれあい会館だけ独立して建てようということはなかなか難しいだろうと思いますけれども、人が寄り合うというか、そこに寄っているいろいろなことを協議できる施設づくりは当然あってしかるべきではないかと思うの

で、その辺も医療政策部で、中川医療政策部理事のほうでしっかりとこのことを受けとめてやっていただけたらありがたいと思います。以上です。

○神田委員 もう最後ですので、少しだけ地元のことをお聞きしておきたいと思いますが、まず、この新奈良県総合医療センターの将来イメージはすごいなど。1つの都市のような気がしましたけれど、少し斜めに見ると、周りから見てここだけが突出したような、あまりにもすばらしい場所で、周りの人たちとの連携や地域との連携が、うまくいくとは思いますが、そんなところも注意してもらえばいいのではないかと。あまりにもすばらしいので、あそこは特別の場所ですとか言われるようになったらおしまいなので、そのことを気にしていただいて、山辺郡・奈良市選挙区の委員がおっしゃったようなことをいろいろこれからもしっかりと取り組んでいってほしいと思います。

近鉄特急がもう今は西ノ京駅でいつもとまるのです。昔は唐招提寺や薬師寺の行事のときはとまりましたけれど、今はいつもとまるので、これはこの病院を意識してるのかと思いつつながら……（発言する者あり）違いますか。（発言する者あり）ひょっとしたらと思つてましたので。違うということですが、そうなるかもわかりません。

それはそれでいいのですけれども、私たちの地元の県立医科大学ですけれども、それなりに進捗をさせていただいているとは思いますが、大学移転のあの辺の進捗状況と、寺田町も含めて四条町周辺の人たちとの話し合いはうまくできているのかをもう一度聞かせていただきたいと思います。

それと、もう一つは、最近樫原市長が会合が終わったら一生懸命ホテルのことと、ちょっと心配なホテル建設ですが、県立医科大学のまちづくりの2つをいつも声を大にして言っておられるので、樫原市との連携が具体的にになってきたのかとかいうような思いもして聞いているので、その辺のところ、樫原市の役割とか、そういうものが少しでも具体的にになっているのだったら教えてほしいと思います。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局長兼医療政策部次長 まず、今度移転いたします新キャンパスのほうでございますけれども、教育・研究部門が移転するというので、1月なのですけれども、地元の四条町小泉堂地区と、四条町本村地区の住民の方々に、教育・研究部門が移転するというので、地元の皆様方に説明会をさせていただきました。2つの地区でおおむね80名以上の方にお集まりいただきました。非常に熱心にどういう形になるのかということで、前向きにいろいろご質問をさせていただきました。私ども県庁から、それとあわせて樫原市からも市道の

拡幅と一緒に計画されておりますので、一緒に行かせていただいて住民の皆様方に一生懸命説明したところでございます。地元の方々が熱心に興味を持って、どうなるのかと、お考えになっているということで、非常にありがたいと思っております。まず1月に、地元の説明会をさせていただいたということでございます。

それと、もう一つ、まちづくりの協定といいますか、まちづくりの関係でございますけれども、まちづくりは先ほどご説明されておりますけれども、そもそも樺原市がまずお考えになって、それに基づいて県として何かお手伝いできる場所があればという形になると思うのですが、今、樺原市の事務方のほうで一生懸命どういう形で樺原市全体をどうしようかと、県立医科大学周辺だけではなくて、例えば、大きなプロジェクトで新聞でも出ていますけれども、近鉄大和八木駅南側の整備とか、いろいろお考えになっているように聞いております。具体的に県にお話がありましたら、適切に対応させていただきたいと思っております。今の段階では樺原市のほうでいろいろ検討いただいているという状況だけは聞いてるといふ次第でございます。以上でございます。

○神田委員　そうですか。小泉堂と四条町の話し合い、協議会というのはいまよくいってるようで、寺田町の人からも、道を挟んでいるけれどそんな話を聞いていましたので、その辺ともあるのかと思ってお聞きしたのですけれど。

それは結構ですけれど、ことしはそれが終わって少し具体的に、いつどうしてという行程がわかるのかと。協議会があつて、これから先、どうしていくのかというのが。農業大学校との関係があるので、こっちは進められないというのもわかりますけれど、その辺で何か具体的な進め方があるのだったら教えてほしいと思います。樺原市のほうのこの県立医科大学に対しての連携というか、協力というのは、具体的にこの部分というのはないのですか。ここをこうするからこの樺原市の土地は提供というのか、立ち退きとかしてもらわないといけない場合は樺原市がその辺のところを協力すると。そういう明確な決まったものはないのか。ただ漠然と樺原市がこういうイメージづくりをしてるから、県にこの部分だけ協力してくださいというような形で持ってくるのですか。医大を中心としたまちづくりというのは樺原市と県が連携しないといけないという中で、樺原市がこの部分はうちがやりますというような区分の仕方はしないのですか。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局長兼医療政策部次長　まず、全体的なスケジュールですけれども、農業研究開発センターが桜井市の農業大学校に移ってもらう、これがまず大前提で、今、農業大学校で施設整備

の工事が進みつつあるのかと。まず移っていただく。それから、今の農業研究開発センターの敷地の造成工事をいたします。それで、県立医科大学の教育・研究部門、俗に言う大学部門になりますけれども、まず移ってくる。それが終われば、県立医科大学の病院部門がごさいますけれども、A棟、B棟、C棟、D棟、E棟。E棟は平成27年度中におおむね工事が終わって、平成28年度のそれなりの段階で引っ越しも終わって稼働する形で進んでおります。それ以外に、まだ老朽施設はいっぱいごさいます。例えば外来部門や臨床医学研究部門の整備があると思うのですけれども、そちらについてもあわせて整備していく。それと、整備については、県立医科大学附属病院と駐車場が離れていますので、なるべく近いところに、これから検討していきますけれども、例えば立体駐車場をつくって病院と隣接するような形になってくると思います。そうしましたら、県立医科大学の南側、大和高田バイパスより南側にグラウンドや駐車場、体育施設がごさいます。そこら辺を、知事がいつも申していますように、病院と連携しているような福祉施設や健康づくり部門など、そういう地域包括ケア部門などという形で整備していくようになりますので、かなり長期的なプロジェクトになると思われます。早くいっても10数年、全体が終わるのはそれぐらいかかるかと。順番に玉突きで動かしていきますので、そういう形になると思われます。

医大周辺のまちづくりについては、橿原市で今ちょうど参道から県の広域消防組合のほうに、新しい道になると思われますけれど、市道の拡幅をされる。その中で、農業研究開発センターの県有地の中も、新しく道をつくる形になりますので、当然その部分と一緒に協力してやっていく。先ほど申しましたように、医大周辺のプロジェクトだけではなくて、もっといろいろなところを橿原市も考えておられると思います。例えば、先ほど奈良市の場合がごさいましたけれども、奈良市と包括協定をされているものを例にとりますと、奈良市平松地区の話が出ましたけれども、それ以外に奈良公園周辺地区、八条や大安寺の周辺地区、近鉄西大寺駅周辺、この大きな4カ所がごさいます。だから、橿原市も医大周辺だけではなくて、いっぱいいい場所をお持ちだと思われますので、そこら辺もあわせて今検討されているのかと思われます。それで、こういう形でしようと、県にお話があれば、きちんと適切に対応していきたいと思われます。以上でごさいます。

○神田委員 農業研究開発センターが向こうへ移るのはいつかとか、ことし中とかはないのですか。苦勞はわかるけれど、なかなかだと思われながらしているのですが。(発言する者あり) いや、今度は地元で見守りますけれど。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局次長兼医療政策部次長 農業研究開発センターの移転、直接所管ではないですけれども、一応平成28年度ぐらいには向こうの整備工事が終わるのではないかと聞いております。直接の担当ではなくて申しわけないのですけれど、それぐらいのレベルでございます。

○神田委員 それでは楽しみに地元で見させていただきますが、医大を中心としたまちづくりがどのようになっていくのかというのは、こんな良いのを見せられたら、あぁっと思いつながらしているのです、橿原市の考え方がわからないので、どこまで考えているのか。あれだけ自信を持って言っておられると、もう何か頭にはあるのかと思って、県との連携を聞かせてもらったようなことでございます。

先ほどから出ておりますが、私も長いことお世話になりましたけれども、今後は地元で協力できることはさせていただきますし、いいまちづくりをしていただきますことをご期待申し上げて、終わりたいと思います。いろいろありがとうございました。委員の皆さんもありがとうございました。

○森山委員長 それでは、これをもって質疑を終わります。

なお、当委員会所管事項に係る議案が追加提出される場合には、当委員会を定例会中の3月2日午前10時半に再度開催させていただくこととなりますので、あらかじめご了承願います。

それでは、理事者の方のご退出願います。

（理事者退席）

それでは、続けさせていただきます。

当委員会は、2月定例会最終日の調査報告をもって終了するわけですが、調査報告に係る調査報告書案、委員長報告案については、事前にそれぞれ各委員にお送りさせていただいております。お手元に配付しております調査報告書案、または委員長報告案について、何かご意見等ありましたらご発言をお願いいたします。

特にございませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

それでは、正副委員長にご一任願いまして、当委員会の調査報告としてよろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

それでは、そのようにさせていただきます。

それでは、これもちまして本日の委員会を終わります。